3 まちづくりの理念と将来都市像

<まちづくりの理念>

国全体での人口減少・少子高齢化が進み、合計特殊出生率は低位で推移しています。かつて多くの自治体が掲げた目標の柱に人口増加がありました。今後も出生増や社会増を目指すことに変わりはありませんが、人口減少や人口構造の変化が国全体で確実に進んでいくという現実を正面から受け止め、成長だけではなく持続可能な地域社会をつくるという目標を立てることが必要です。そのコンセプトとして「地域自給圏」を掲げます。「地域自給圏」とは、地域資源を最大限に活用し、「いのち」を支えていくために必要な要素は、可能な限り地域の中で整え、分かち合うという、まちづくりの理念です。

豊富な地域資源や多彩な人材に恵まれた小田原は、厳しい社会環境の中にあっても、誰もが安心して笑顔で暮らすことのできる持続可能な地域社会への道筋を示すことのできる都市です。「地域自給圏」というコンセプトのもと、小田原の地域資源を、「自然の力」、「人の力」、「まちの力」、「産業の力」、「文化の力」の5つの力とし、これらを支える「行政の力」とともに生かしながら高めていきます。また、主権者であり、信頼の絆で結ばれた市民が主体的に課題解決の取組に参画できる仕組みや体制を構築します。あわせて、より良い姿となるために必要なものは、近隣市町にとどまらず多様な主体と連携・協力しながら、相互に補い合い、分かち合っていきます。こうしたことで、課題解決の仕組みを整えて、まち全体で様々な課題を克服していきます。

こうした理念のもと、ふるさと小田原を愛するすべての人が心をつなぐし、喜びも苦しみも分かち合い、お互いに支え合い、より豊かなかたちで小田原を次の世代に手渡すための実践に取り掛かります。取組を進める中で、市民の暮らしが豊かなものになるとともに、まちの魅力が向上し、それによって市民のまちへの愛着が深まります。そのような小田原の姿は新たな資本や人材を引き寄せる求心力となり、市内外の力が融合することで持続可能な小田原の実現に向けた循環がさらに活性化します。

<将来都市像>

小田原が実現を目指す将来都市像として、「誰もが笑顔で暮らせる、愛すべきふるさと小田原」を掲げます。それは、市民一人ひとりの「いのち」が大切にされ、まちに賑わいと活力をもたらしながら、安心して地域社会で暮らし続けることができる持続可能なまちです。